二〇一六年五月一三日

薫風の中和太鼓の乱れ打ち　満　天
運河いま行く手に立ちし雲の峰　ぽんこ
麦秋の広きを駈けて風あそぶ　たか子
薫風や丸太造りのベーカリー　とろうち
ビル街の園はオアシス薔薇かおる　ひかり
薫風や茶畑に立つ大風車　さつき

二〇一六年五月一二日

岩走る水に煌めく苔の面　智恵子
島巡るレンタサイクル風薫る　さつき

二〇一六年五月一一日

試歩疲れ木陰を探す薄暑かな　ぽんこ
朱の門に触れもす風の若楓　なおこ
楠大樹緑陰なせる宮門跡　よう子
笑みたまふ慈母観音へ初蝶来　明日香
上皇の汲みし泉の今も湧く　治　男

二〇一六年五月一〇日

あるなしの風に錐揉む竹落葉　満　天
ふんはりと夏霧山を包みけり　明日香
迷ひ込む子雀に句座てんやわんや　ひかり
天つ藤屑をこぼせる遥拝所　なおこ
広畑を十字返しやつばくらめ　ぽんこ

二〇一六年五月九日

右左新緑せまるドライブウエー　ぽんこ
宇治山の緑雨に鎮む茶筅塚　菜　々
息止まるかと思ふほど青嵐　なおこ
ひとすじの水脈引く海や明早し　明日香

二〇一六年五月八日

壬生狂言腕たくましき白拍子　なつき
肩ぐるまされ藤房にとどきけり　智恵子
庭に得し一握の幸豆ごはん　菜　々
遊船の波桟橋を揺らしけり　なつき

二〇一六年五月七日

白壁に薔薇つるませし美容室　せいじ
夏草が鉄路を隠すゼロ番線　たか子
薄暑かな出だし揃わぬ吹奏楽　よう子
校歴の百年を知る楠若葉　菜　々
セル着れば肩の荷おりし如軽し　ともえ

毎日句会みのる選・二〇一六年五月一五日